パキスタン国シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善プロジェクト

当プロジェクトの通称 Light-F(Livelihood Improvement for Growth and Transformation of Female)ロゴは、パキスタンで、生命、真実、再生力を象徴するたいまつをあしらっています。パキスタンの女性たちの炎のように力強い上昇を願って作りました。

プロジェクトニュースレター第7号(2023年5月)

2022 年洪水被害と支援状況レポート

パキスタンでは、2022年6月から断続的に続いた豪雨の影響により大規模な洪水被害が発生し、政府によると国土の3分の1が水没しました。プロジェクト対象地であるシンド州のインダス川流域でも被害は広範囲にわたり、多くの人命が奪われ、家屋が倒壊し、農地が浸水して農作物にも甚大な被害を及ぼしました。また貴重な収入資源である多くの家畜が流され、生計手段も大きく失われました。災害当初はパキスタン全国で 140 万の家屋倒壊、3300 万人に影響が出ました*。災害発生から半年以上経過した 2023 年 4 月現在でも、約 180 万人の人が汚染された溜まり水近辺に居住し、健康を脅かされている状況です。

プロジェクト関係者や支援している裨益者も多くの人が被災したため、当プロジェクトでも活動を計画とおりの継続することが難しくなりました。プロジェクトでは、災害の緊急対応として、現地パートナー機関、JICA と協力して様々な支援を行いました。今回は現地の状況と支援内容についてご報告します。

*UNOCHA Situation Report

2022 年のモンスーン期が始まると、連日の全く降りやまない豪雨の日々‥プロジェクトスタッフも状況を心配し始めた 7 月末、プロジェクト活動地の農村部に住む裨益者の女性たちから次々と SOS の連絡が入り始めました。「屋根が崩れて雨が入ってきた‥助けて！」「家畜が流されてしまった！」などなど。しかし現地のニュースでもその時点では状況が伝えられておらず、プロジェクトでは現地スタッフを総動員して情報収集にあたりました。首相の現地訪問をきっかけに事態の深刻さが国内外に明らかになったのは 8 月末でした。

すっかり浸水してしまったプロジェクト対象の SherMuhammadMangshi 村

状況は想像以上に深刻で、プロジェクト対象 20 村の全てが被災し、ひどい村では 8 割の家屋が倒壊しました。モンスーン期終了後も水はなかなか引かず、マラリアやデング熱、感染症による下痢などが蔓延しました。このような状況下、プロジェクト活動は一時中断し、スタッフはいち早く被災者の緊急支援にあたりました。

プロジェクト概要

- 案件名:シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善プロジェクト
- 協力期間:2017 年 3 月～2023年8月
- 相手国機関名:シンド州女性開発局(WDD)
- 上位目標:
  女性家内労働者(FHBW)向けの「生計向上ナレッジ・アンド・ツールキット」に含まれるサービスの一部を受けた FHBW の世帯数が増える。
- プロジェクト目標:
  官民連携を通じて開発された女性家内労働者世帯の生計向上を目指すツールキット適用が促進される。
- 成果:

1. ツールキットの適用促進に向けて WDD の能力が強化される。
2. FHBW 世帯のライフマネジメント能力が向上する。
3. FHBW 世帯の金融サービスアクセス能力が向上する。
4. FHBW が収入向上に必要な知識と技術を習得する。
5. フォーマルセクターへの女性雇用促進の重要性が啓発される。

- 対象地域:
  カラチ、サッカル

手刺繍を施した伝統的な靴(クサ)

支援第１弾 － 緊急の食料･シート支援

現地の活動パートナー機関と協力して現地の状況把握を行い、緊急の食料と風雨をしのぐためのビニールシートの配布を行いました。とにかく事態は急を要していたため、プロジェクト関係者の寄付をかき集めた結果、2022年8月に20村200世帯に、合計450個の食料詰め合わせバッグと、200枚のビニールシートを配布することができました。現地パートナー機関のスタッフが、本人たちも被災している上に道路状況も悪い中、物資の調達、配布に駆け回ってくれました。まだ雨が降り続いており物流が寸断される中、当面の食料が確保できて農村の裨益者たちもなんとかホッとした表情を見せてくれました。

支援第2弾 － 蚊帳と毛布の支援

災害発生から日にちが経つにつれ、マラリアなどの感染症蔓延の恐れが出始めました。実際にシンド州ではデング熱が大流行し、プロジェクト関係者でも複数の人が罹患しました。これらの感染症を媒介する蚊を就寝時に防ぐことが重要です。プロジェクトでは JICA の支援によりプロジェクト予算を配分し、2022年10月にパートナー機関と協力して当時品薄になっていた蚊帳1700張を調達することができました。1世帯につき3張を目安に、合計567世帯に配布しました。

また気候は暑いイメージがあるシンド州ですが、プロジェクト対象地であるサッカルは、夜は零度近くになるほど冷え込むことがあります。テントや崩れかけた家屋で雨露をしのいでいる被災者にとって冬は過酷な季節です。そこで2023年1月頭に毛布670枚を配布しました。寒い季節になんとか間に合いました。

また日本政府の資金供与により国際移住機関（IOM）が実施した支援活動に協力しました。IOM による被災状況のアセスメントの結果、2023年2月に、プロジェクト対象の10村に、生活必需品キット（石鹸、歯ブラシ、生理用品、懐中電灯など）や調理用品などが配布されました。

その他の支援活動

災害がひと段落すると、状況は依然厳しい中でも、裨益者の女性たちからプロジェクト活動の再開を熱望する声が寄せられました。プロジェクトでは成人識字のトレーニングを実施する予定でしたが、洪水でトレーニング実施場所がなくなってしまった村もありました。そこで簡易のコミュニティースペース2棟の建設を支援しました。2023年4月現在、このスペースは成年識字などプロジェクトが実施するトレーニングの他、子供たちの学習スペースとしても活用されています。

2023年2月には、パートナー機関 NGO が支援女性たちの製作する手工芸品を販売する展示会をカラチのショッピングモールで開催しました。プロジェクトではこの製品の材料費を洪水災害対応として支援しました。燃料･物価高騰などで国内経済が低迷する中でも、大勢のお客さまが来場し、シンド州の伝統的技法を駆使した美しい手工芸品を購入して頂きました。これらの販売から得られた収入は、被災者の生計を立て直すための資金として有効に役立てられました。

後記：新型コロナウィルス感染拡大の収束がようやく見えてきた頃、パキスタンは未曽有の災害に見舞われ、プロジェクト対象地域も大きな被害を受けました。あまりに悲惨な出来事を前になすすべもなく悲嘆にくれ、これまでの成果も水に流されてしまった…とプロジェクト関係者が肩を落としている一方で、被災した女性たちは驚くべき早さで元の生活を取り戻すために立ち上がっています。過酷な状況に立ち向かうことができる強靭な精神力には驚嘆するばかりです。プロジェクト期間も残り少なくなりましたが、プロジェクト関係者一同できる限りのことをしていこうと心に誓っています。

シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善プロジェクト　2023年5月